

氏名(本籍)	井口梓(兵庫県)
学位の種類	博士(理学)
学位記番号	博甲第4851号
学位授与年月日	平成20年10月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	A Geographical Study on the Role of Female Farmers in Restructuring the Space of Agricultural Production: A Case Study of Bok-Choy Producers in Toyoda Town, Shizuoka Prefecture (農業生産空間の再編に果たす女性の役割に関する地理学的研究－静岡県旧豊田町のチンゲンサイ生産農家の事例－)
主査	筑波大学教授 理学博士 田林 明
副査	筑波大学教授 理学博士 手塚 章
副査	筑波大学教授 理学博士 山下 清海
副査	筑波大学教授 理学博士 村山 祐司
副査	筑波大学准教授 博士(理学) 松井 圭介

論文の内容の要旨

本論文は、高度経済成長期以降の家族農業経営の変遷を女性農業者の活動を通して分析し、農業生産空間の変容に果たす女性農業者の役割を明らかにした。ここで用いる農業生産空間とは、農業生産活動を媒介として、農業者とその家族、あるいは友人や知人、生産組織、そして地域社会との結びつきがつくる空間的なまとまりである。農業生産空間には、生産と出荷、消費といった経済的要素のみならず、家族やその他の人間との関連などの社会的要素、さらに家族内や集団内の発言権や意思決定の際の対立関係などの政治的要素などが統合的に含まれる。

まず女性農業者とその家族のライフヒストリーをデータとして収集した。ライフヒストリーのデータをもとに、女性個人の就業変遷や農業従事の変化、ライフイベントを分析した。次に、女性を含む家族の農業経営の変遷と、労働力構成や家族のライフイベントとの関係について分析した。家族世帯員の役割分担や意思決定の仕方に着目することによって、女性農業者が個々の活動から、家族内での活動へ、さらに生産組織へと農業生産空間を拡大していく過程が明らかとなった。

対象地域である旧豊田町では、1970年代に、男性世帯員が日雇い兼業から恒常的通勤兼業に移行し、農外就業への依存の程度が強まった。このような兼業化にともなって「農業労働力の女性化」が起きた。それは量的にみると、女性農業者が男性農業者に代わって農業労働に従事し、女性の労働の比重が増す過程であった。質的な変化としては、従来男性農業者を中心に行われた農業技術の継承が、女性によって行われるようになったことであった。女性農業者は、家族世帯員の支援を受けながら、補助的な農作業への従事から、次第に経営内容の意思決定に関わるようになっていき、家族内で主体的に農業を担う立場になった。一定の農業技術を習得した女性農業者は、生産組織への参加を通して、家族内から地域社会へと農業生産空間を広げた。地域社会の中で相応の役割を与えられた女性農業者は、農業に意欲的に取り組み、積極的に情報収集を

し、新規作物であるチンゲンサイを導入した。中国野菜の多品種計画栽培や栽培施設の導入支援などは、男性指導者の助言に基づき生産体制に取り入れられた。参加した女性農業者はチンゲンサイ生産を発展させるにつれて、多品種計画栽培からチンゲンの専作化へ、集落単位の生産班を技術支援、情報交換、情緒的支援ができる重層的な女性グループへと再編し、家庭菜園から規模を急激に拡大するなど、生産体制を著しく変化させた。すなわち、女性農業者は個々の農業経営内だけではなく生産組織に積極的に関与し、弱体化していた野菜生産地域を再編するきっかけを与えた。

従来の研究では、農村地域における兼業農家は農業生産の変化や社会構造の変化を引き起こす要因として説明されてきた。しかし、農村地域に存在する個々の女性農業者とその家族の動向から検討することによって、兼業農家には女性農業者が中心となった農業維持のメカニズムが存在することが明らかとなった。兼業農家の農業維持のメカニズムは、家族農業経営の新しい形態の1つであり、女性農業者に対して新しい農業産地をつくる力を与えた。本研究では、兼業農家を従来とは異なる側面から捉えることで、女性農業者による農業経営の柔軟性や持続性が地域社会や地域コミュニティを再編する役割を果たしうることを提示した。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、女性農業者とその家族による農業維持のメカニズムに焦点を当て、チンゲンサイ生産地域を事例として、高度経済成長期以降の日本農業の兼業化と女性化を新たな観点から解明しようとしたものである。そのために、対象農家の女性農業者とその家族世帯員について詳細なライフヒストリーを収集するという調査方法を用いたことが本研究の特徴の1つである。

女性農業者をめぐる農業生産は、経済的側面のみならず、社会的側面や意思決定、発言権など政治的な側面とも関わっていることを考慮して、本研究では「農業生産空間」という概念を導入して、女性農業者が果たす役割の変化を検討した。本研究は、個々の世帯員のレベルにまで踏み込んだ農業経営の変化のプロセスの分析を試みた。特に、女性農業者とその家族のライフイベントや家族内の農作業分担、社会的な役割などを克明に調べ、家族農業経営における女性農業者の段階的な役割の変化が、兼業農家の農業の存続にとって重要であったことを指摘した点は、本研究で得られた新しい知見として評価できる。

本研究の意義は、兼業化について地域農業や就業構造の変化という外部要因のみならず、個々の農家の条件や女性農業者の対応など内部要因から検討したことで、女性農業者が家族や生産組織、そして農村社会に主体的な農業者として順応し、農業生産空間を拡大していく過程を考察した点である。旧豊田町における女性農業者の中国野菜産地の形成はその結果であり、女性農業者による地域農業の再編も可能であることを実証的に示した。1970年代から1980年代にかけて日本各地で女性農業者による産地形成の類似事例が報告されており、本研究が指摘した女性農業者による農業維持のメカニズムは、高度経済成長期以降の家族農業経営の変化を説明する上で、他の地域にも応用できる一般性を有するものであると考えられる。本研究は、これまでの女性農業者の実態について再検討し、女性農業者による農業生産の可能性と農村コミュニティの持続性を考える新たな方向性を提供したことから、現代的課題に応えた研究であると評価できる。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。